

宮沢教授のコペルニクス的転回

同志社大学名誉教授 藤馬龍太郎

つい先日、八月一七日付朝日新聞を見ていたら、目にとまった記事があった。『平和國家の道』“軍不要”に、昭和二年二月八日に認める“甲案”と、軍関係の規定を全面削除する“乙”という印象が強かったが案がまとめられ、最終的に、昭和二年二月八日に正直言って、なにを今更

憲法制定過程で政府の調査委員、軍備撤廃論・詳細が「判明」とある。内容は、敗戦直後の新憲法制定作業の過程で政府の憲法問題調査委員会（いわゆる松本委員会）で委員らの間で、軍備全面撤廃論が議論されている。このことが「憲法第九条の甲案がGHQに提出された。このことが『憲法第九条の発案者はだれか』をめぐり、当時の首相幣原喜重郎か、マッカーサー元帥なのか、はたまた、二人の合作なのか、という論争にもつながる、と朝日新聞は書いていた。

この美濃部と宮沢との論はなにも事新しいことではない。いまさら仰々し新資料の発見でもあるかのごとく報道する迄もある。い。「知る人ぞ知る」でこのことは、日本国憲法制定関係の文獻として追隨を許さない学術的

いうものである。国立国会図書館専門調査員、高見勝利氏（元北大教授）が当館に所蔵されている当時の松本委員会やその他関係資料などを包括的に調べた結果で、近く法律雑誌に発表する予定だという。これは、憲法第九条につながる非軍事国家の構想がもともと日本側にあったことを裏付けるものだという。松本委員会が中心的な役割を果たした委員の一人である憲法学者の宮沢俊義（東大教授）が、GHQの武装解除によつて国会図書館調査立法考査局の調査員として、初めての本格的な仕事であった『日本国憲法制定経過目録（未定稿の三）』附録・日本国憲法制定関係資料一覽及び収集整理資料目録他『昭和三年・国立国会図書館調査立法考査局刊』を苦心してまとめたこと、さらに数人のスタッフで、松本委員会資料のほか、内大臣府の憲法改正案（近衛案、佐々木惣一案）や内閣法制局資料（佐藤達夫法制局長官

この記事を見て、私はか
この記事を見て、私はか
資料的価値の高い佐藤達
『日本国憲法成立史』全
『龍のおと
『憲法誕生
（第
二巻五号で「憲法誕生
生き証人」として紹介）
なかで既に明らかにされ
いるところである。（第
三巻三三頁及び第二巻五
五頁以下。なお、入江俊
『日本国憲法成立の経緯
（九二一九五頁）では、
皇及び軍の制度をめぐる
美濃部と宮沢との議論
について、のちに宮沢も
席している回顧談として
紹介されている。）

る軍の不在という敗戦時の現実には憲法規範を合わせ、統帥権（十一條、戒嚴令（十四條）など軍関係規定を明治憲法の規定から全面削除した改正案を作成すべきだと主張したのに対し、顧問の美濃部達吉（東大名、舊教授）は「永久に陸海軍は無くしても良いものであろうか」と疑問を呈し、軍関係規定の限定削除論を訴えて対立したというのである。委員会で賛否の議論の末「連合軍撤兵後、警察外に要する必要最小限度の国防力」としての軍隊存置を（当時「保管資料」など日本國憲法制定関係の原資料の収集、整理をはじめ、日本國憲法制定事情について当時の模様にくわしい関係者（例えば、佐々木惣一、フランク・リゾー、佐藤達夫、金森徳次郎他）の談話を非公式に録音し、音盤（レコード）化して当館に保存し、非公開として保管する作業（この資料は現在も、当館憲政資料室に保管）など、当時の苦勞が思ひ出されて感慨を禁じえないものがあつた。この新聞記事の読後感想としては、ついでながら、本書について第一巻の「まえがき」で佐藤自身が次のように書いているが、まさに「憲法誕生の生き証人」の面目躍如たるものがある。「幸か不幸か今日では、幸いにして」といってもいいかも知れない。わたしは日本國憲法成立の全過程を通じて、始終これにふかいかかわりをもった。当時わたしは、法制局の部長でない次長であり、……あるいは政府原案の起草にあずかり、あるいは、直接総司令部との交渉にたづさわるなど、重要

な役割をつとめた。……この本の執筆に際しては、日本国憲法成立過程の全体を通じての正しい判断の資料として、舞台全体を過去にもし、そのときそのとき
の環境をもできるだけ背景に生かすよう努めた。この本では、憲法成立過程におけるわたしの経験、その保存しているメモその他の文書はもちろん、わたしの知りえた一切の情報を洗いざらし書きとめた」と述べている。

ところが歴史的事実が示す如く、この憲法問題調査委員会の甲案、乙案いずれもがGHQの受け容れるところとはならなかった。占領軍最高司令官は、基本的と考える諸原則にもとづいて、日本政府の憲法改正の方針を変えさせることが必要であると判断して、日本政府に最も有効に教示する手段として、独自の憲法草案を用意するという結論に達した。そこで、マッカーサー・ノートに基づいてG

この『成立史』をみると、確かに甲案と乙案としては佐藤も指摘するように「この軍に関する規定の扱い方は、両案のあいだにおける最も顕著な差異である」(第二卷六一〇頁)といえよう。しかしこのことは、ほかの点では大きな相違のないことを意味している。甲案、

HQ内部において秘密裡に、一週間で作成された憲法案案(マッカーサー草案)が二月三日に日本政府に手交されることになる(その経緯については、司令部案起草の中心人物であったチャールズ・L・ケーディスの「日本国憲法制定におけるアメリカの役割」(『竹

乙案)いずれも明治憲法の手直しとして企図されたものであることはいう迄もない。例えば、天皇の地位についても特段の変更を加えているわけではなく、当時、日本政府は天皇制の維持、國體護持を國是としていたから、当然のこととして、甲案では、第三条の「神聖」を「至尊」に改めるにとど

前・岡部訳)上(下)法律時報一九九三・五、六号に詳しい)。GHQ側は、①松本草案は全面的に受諾しがたいこと ②天皇制保持のためにも、司令部案のごとき憲法改正案を提示すること③この案のごとき改正案を日本政府に対し命ずるものではないが、司令部案と根本原則(ファンダメン

め、乙案では（Ａ）案は「天皇ハ統治權ヲ行フニ付貢ニ任スルコトナシ」（第一項）、「天皇ノ一身ハ侵スヘカラス」（第二項）としており、（Ｂ）（Ｃ）案も、表現こそ違へ、天皇の不可侵性を明記しているのである。従つて両案の間には明治憲法の基本原理との關係でなんら根本的差異は存在しないのである。その後の事態が進行しておれば、おそらくこのいずれかの案が日本政府の憲法改正案として公表されることになつたであらう。

タル・プリンシプス」と基本形態（ベシック・フォーム）を二にする改正案をすみやかに作成、提出すること、を日本政府に要求したのであった。この司令部案（マッカーサー草案）は、いうまでもなく、それ迄の日本側の憲法構想（松本草案甲・乙案）とは全く異なる原理と精神の上に立つ憲法草案であり、以後、この原理は動かし難いものとして、周知のごとく、日本国憲法制定作業を支配し進められて、若干の修正を経て日本国憲法として結実した。

「現在のわが憲法典が元來民主的傾向と相容れぬものでないことを十分理解する必要がある」として、わがが明治憲法の弾力性ということと関連して改正を俟たずとも相當な範圍で運用による改善の道のあることを主張していた。ところが松本蒸治（東大教授、商法）国務大臣を委員長として幣原内閣のもとに設置された憲法調査会の憲法調査は、そこで宮沢が恩師美濃部の意に反して、軍閥關係規定の全面削除を主張したとしても、それは單なる興味ある一挿話にすぎず、日本國憲法制定の「前史」における一齣にしかすぎないもので、現行日本國憲法とは全く斷絶した議論であつたわけである。

それにしても、敗戦直後は、美濃部も宮沢も、ともに明治憲法は改正しなくても、運用によりポツダム宣言の要求する日本の戦後の民主主義の復活強化はできると主張していた。(美濃部達吉「憲法改正問題」(上・中・下)・朝日・昭二〇・一〇・二〇)三付、宮沢俊義「憲法改正について」(毎日・昭二〇・一〇・一九付)。

宮沢は、この論議のなかで法問題調査委員会が発足するや、この二人は改正草案の起草に当り、指導的な役割を果たすことになる。しかしその作業は先述のごとく、旧態依然たる基本思想にもとづいて行われたことは、先述のとおりである。

ところが大変興味ぶかいことに、「占領軍側の草案(注・マ草案)に接したとき、宮沢の思想は一定とびした」(長尾龍一「日本国

1975年度生のゼミ旅行の集合写真（3回生）



1975年度生のゼミ旅行の集合写真(3回生)

『憲法の原理』三七六頁）とされた。そして昭和二年八月二十六日の貴族院本会議では、貴族院勅選議員となつてゐた宮沢は賛成を行ない、八月革命説を展開して痛烈に、當時国体不変論にたつ政府見解（金森徳次郎國務大臣）を批判したのである。（佐藤功『憲法改正の経過』二一六頁）

こうした一連の宮沢の態度

る。すなわち、三月六日、政府によって「憲法改正草案要綱」「司令部案の日本語版」といえるものが突如発表されるや「態度を変えて」（尾吹善人「憲法教科書」五五頁）彼は「八月革命と国民民主主義」と題した論文を雑誌「世界文化」（昭和二〇・五月号）に発表し、大要次のようにいう。ポツダム宣言は、はっきりと「国民主権」の要求を含んでお

度の豹変が、いわゆる宮沢教授の「コペルニクスの転回」として世に皮肉られてゐるゆえんである。

会長はじめ役員の方々が多忙のなか、ご尽力を賜ったこと、会員諸氏のご協力のおかげで、第一七回総会を開催して頂き、久しぶりに皆さんの元気な様子に接することができ、本当にうれしく、厚く御禮を申

り、やむをえないとはいへ、これを日本政府が受諾した一九四五年八月一日の時点ですでに旧憲法の「神權主義」から「國民主權主義」への革命が成就しており、この変革は、旧憲法の枠内で合法的になしているものではなく「敗戦という事実の力」によって遂行された法的革命である。こ

し上げます。一昨年の体調の崩れも、月一回の定期診断を欠かさず、元氣を維持し、氣力も充實しております。週一日、大学院での「憲法研究」と「憲法特講演習」に全力投球して、この二年有餘、一回の休講もせず(院生諸君にとっては、かえって迷惑かも……!?)、張の切っています。

「OBだより」

阿知波 由理
(75年度生)

「龍のおとし子」の原稿依頼をいただき、お引き受けするかどうか返事に迷っていました。そうするうちに、機関紙担当の方から電話があり、毎回原稿が集まらないと聞き、お断りするとは諦めて、身代りをし

てくれる人を捜すことにした。

藤馬会の案内状を手に入しぐりに友達に電話をした。懐かしい声が聞こえてきた。原稿身代り作戦を頭のスミに置きながら、近況や思い出話を花を咲かせている。懐かしいシーンが次々と思ひ浮び、作戦はいつの間にか変わっていた。お互いに

皆さんの益々のご活躍とご多幸を祈っております。

OB
だより

「經緯」

阿知波由理

(75年度生)

(75年度生)

前ページより

原稿を書くという私の申し出を快諾してくれた。結局、私も原稿を書くことになったが、唐突の申し出を二つ返事で引き受けてくれたことで心地よかった。

心地好くも束の間で、その後何を書くか悩むもがく羽目になっていたが、原稿をフラスコした後の解放感、いや達成感を今想像しながら……。

みなさん「龍のおとし子」の原稿依頼が参りました。逃げず、隠れず(失礼!)快くお引き受け下さい。引き受ける方が、断るより気分は良く、共にめがけ友達がいたら、もっと嬉しい。誘い合って書くことを是非お奨めします。

藤馬ゼミ総会に全員集合

伊藤 友隆

(75年度生)

呼び出し音が鳴っている間、果して受話器を取って

くれるのは良く知った声の主なのか、それとも初めて耳にする声の主なのか、不安に感じながら待っていました。返事の声はまさしく、30年近く前にキャンパスでふざけていたあの時の声で、もしかして初

めて話す家が電話口に出た時の事を考えていた。緊張感がスッと遠のくや、後は一気に学生時代にタイムスリップ。ゼミの友達同士で車に分乗して須磨までドライブしてあの頃には神戸にしか無かったアンリシヤルパンティエでコーヒータケキを食べて戻って来た事や、ゼミの仲間のシャイなあいつが実は同じゼミのあの娘に恋心を抱いていた事や、ゼミ旅行に行ったその夜に大いに盛り上がり藤馬先生も柱にしがみついたゼミの鳴き声もあつてもまねをして下さった事など、気がつけば受話器を持つ手がしびれる位の長話して

今や我々1975年度生は職場でも家庭でも両面にずしりと重責を感じる。生の円熟期に入っており、頃が否が応にもひきまいた顔になる事が多いのです。が、今手元にある昭和52年10月に先生とゼミの仲間27名で行った串本へのゼミ旅行の集合写真を見れば、皆表情が光り輝いています。今度の藤馬ゼミの総会も同期で大学を押しつけて下さる藤馬先生に感謝し、いつまでもお元気でいて下さい。藤馬先生も柱にしがみついたゼミの鳴き声もあつてもまねをして下さった事など、気がつけば受話器を持つ手がしびれる位の長話して

今や我々1975年度生は職場でも家庭でも両面にずしりと重責を感じる。生の円熟期に入っており、頃が否が応にもひきまいた顔になる事が多いのです。が、今手元にある昭和52年10月に先生とゼミの仲間27名で行った串本へのゼミ旅行の集合写真を見れば、皆表情が光り輝いています。今度の藤馬ゼミの総会も同期で大学を押しつけて下さる藤馬先生に感謝し、いつまでもお元気でいて下さい。藤馬先生も柱にしがみついたゼミの鳴き声もあつてもまねをして下さった事など、気がつけば受話器を持つ手がしびれる位の長話して

今や我々1975年度生は職場でも家庭でも両面にずしりと重責を感じる。生の円熟期に入っており、頃が否が応にもひきまいた顔になる事が多いのです。が、今手元にある昭和52年10月に先生とゼミの仲間27名で行った串本へのゼミ旅行の集合写真を見れば、皆表情が光り輝いています。今度の藤馬ゼミの総会も同期で大学を押しつけて下さる藤馬先生に感謝し、いつまでもお元気でいて下さい。藤馬先生も柱にしがみついたゼミの鳴き声もあつてもまねをして下さった事など、気がつけば受話器を持つ手がしびれる位の長話して

今や我々1975年度生は職場でも家庭でも両面にずしりと重責を感じる。生の円熟期に入っており、頃が否が応にもひきまいた顔になる事が多いのです。が、今手元にある昭和52年10月に先生とゼミの仲間27名で行った串本へのゼミ旅行の集合写真を見れば、皆表情が光り輝いています。今度の藤馬ゼミの総会も同期で大学を押しつけて下さる藤馬先生に感謝し、いつまでもお元気でいて下さい。藤馬先生も柱にしがみついたゼミの鳴き声もあつてもまねをして下さった事など、気がつけば受話器を持つ手がしびれる位の長話して

今や我々1975年度生は職場でも家庭でも両面にずしりと重責を感じる。生の円熟期に入っており、頃が否が応にもひきまいた顔になる事が多いのです。が、今手元にある昭和52年10月に先生とゼミの仲間27名で行った串本へのゼミ旅行の集合写真を見れば、皆表情が光り輝いています。今度の藤馬ゼミの総会も同期で大学を押しつけて下さる藤馬先生に感謝し、いつまでもお元気でいて下さい。藤馬先生も柱にしがみついたゼミの鳴き声もあつてもまねをして下さった事など、気がつけば受話器を持つ手がしびれる位の長話して

今や我々1975年度生は職場でも家庭でも両面にずしりと重責を感じる。生の円熟期に入っており、頃が否が応にもひきまいた顔になる事が多いのです。が、今手元にある昭和52年10月に先生とゼミの仲間27名で行った串本へのゼミ旅行の集合写真を見れば、皆表情が光り輝いています。今度の藤馬ゼミの総会も同期で大学を押しつけて下さる藤馬先生に感謝し、いつまでもお元気でいて下さい。藤馬先生も柱にしがみついたゼミの鳴き声もあつてもまねをして下さった事など、気がつけば受話器を持つ手がしびれる位の長話して

今や我々1975年度生は職場でも家庭でも両面にずしりと重責を感じる。生の円熟期に入っており、頃が否が応にもひきまいた顔になる事が多いのです。が、今手元にある昭和52年10月に先生とゼミの仲間27名で行った串本へのゼミ旅行の集合写真を見れば、皆表情が光り輝いています。今度の藤馬ゼミの総会も同期で大学を押しつけて下さる藤馬先生に感謝し、いつまでもお元気でいて下さい。藤馬先生も柱にしがみついたゼミの鳴き声もあつてもまねをして下さった事など、気がつけば受話器を持つ手がしびれる位の長話して

藤馬会の将来について

藤馬会会長 福塚 秀彰

(70年度生)

藤馬会の第4代会長に選ばれたこと、藤馬先生並びに同窓生の皆さんに対する、重責を感じると共に、自分の人生を振り返る機会を、皆さんから与えられたと思っています。

私にとって、藤馬先生の教え子の集まりであるこの藤馬会には、大学ゼミの同窓会以上の意味をもつ重たさを感じています。

私事ですが、1974年に同志社を卒業して、大阪市役所に勤め、約30年、もうボチボチ退職を考えないといえは、ウソになる年齢になってきました。

事だよりよく受話器を置くのでした。

メジナの「恩返し」と

サバの「お礼参り」

寺尾 淳 (79年度生)

私は最近、釣りに凝っている。どれくらい凝っているかというと、釣りの出撃基地にするために関東最南端の磯釣り地、千葉県白浜町のマンションを即金で買ってしまっただけだ。

「釣りバカ」と言ってもいいかもしれない。でも、一介のサラリーマンで妻子がいるながら、誰もが欲しがる最新・最高級のタックル(釣具)を見せびらかし、大型の釣り船を平気な顔でチャーターする映画の「浜ちゃん」には負ける。鈴木建設という会社はほぼ給料がいののか。それとも彼は社長(「フーさん」)の交際費を好き勝手に釣りに流用できる社外秘の既得権益も有しているのか。

後輩達との、親しい交わりが、私の人生にとって、大きな柱の一つになっていました。私にとっては、藤馬会が人生の揺らぎの中でも、変わらぬ人の付き合いの大切な宝でした。

藤馬先生の教えを受け、同窓として、藤馬会に對する思いは、人により人生により、それぞれ違ひはあるでしょう。毎年、遠距離に関わらず、多忙にも関わらず、馳せ参じていただけの同窓の人間のために、今後も、時代にに応じた、形は変えていくのが、役員に課せられた役割だと思っています。

現役生がいなくなっ

て、彼らの努力の大きさを感ずる共にこれからOBで派手さは欠けても、いざいざ銀のようにな、大人の同窓会を目指していきたいと思っています。

最後に、昨今の生き残り競争を賭けた大学間競争の激しさは、驚くべきものがあります。私達、藤馬会のメンバーも、同志社大学に在籍しているのと同じく、時代に応じた、形は変えていくのが、役員に課せられた役割だと思っています。

藤馬会でも多いに語り合ひましよう。

他人の会社のこととはちがって、野生の世界に生きる魚を相手にしている。しばしば不思議な出来事が起こる。

昨年の秋、白浜で中型のメジナ(関西では「グレ」と呼ぶ魚)が釣れた。釣り人との「格闘技」が大好きな緑色の魚である。私の釣りは魚を遊ぶのが主目的で、食すことにはこだわらない。から、バケツに一時滞在していたが、写真を撮ってすぐリリース(海に帰すこと)する。その時、解放してやったメジナはいったん海に沈んだ後、また浮いてきて私の前で「ワンワン」と領いた。それはまるで助けを求めたかのように、海の中にポツチャン「あ」という間もなく、海底に沈んでいった。

私は思った。「きつとさ」さのサバの怨霊のタタリだ。『お礼参り』だ」と。誓って言うが、私には「殺意」はなかった。が、死骸を海に捨てたら力モメのエサになり、結果的に「鳥葬」したことが余計に恨みを買ったと、言えるかもしれない。

サスペンスドラマなら、最後の5分間に海辺の断崖の上で犯行を告白……。「私は殺すつもりはなかったんです。信じて下さい。」刑事さん「殺意を否認されても、遺体を海に投げ入れたのは、死体遺棄罪ですよ。奥さん、これが発見された被害者の遺体の写真です。」

「(つづいて)……」

「暑まて同行ください、奥さん」

そして覆面パトカーがその場を去ってゆく。というラストシーンが目につく。これ以上、サバの仲間を怒らせて復讐行為がエスカレートしないよう、今後

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

狙っていたシロギスはなぜか釣れなかったが、釣果はあります。けれども夕方、ボートを撤収する際、ゴミを拾おうとしてかんだら携帯電話がポケットから転がり落ちて、海の中に落ちてくれたお礼をしているように見えた。私はその時、「このメジナは礼儀正しい奴だ」と思った。

それから一カ月ぐらいたった後、今度は別のデパートから5千円の商品券が届いた。とくに覚えていたが、店頭で応募した賞券がたまに当たったようだ。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

狙っていたシロギスはなぜか釣れなかったが、釣果はあります。けれども夕方、ボートを撤収する際、ゴミを拾おうとしてかんだら携帯電話がポケットから転がり落ちて、海の中に落ちてくれたお礼をしているように見えた。私はその時、「このメジナは礼儀正しい奴だ」と思った。

それから一カ月ぐらいたった後、今度は別のデパートから5千円の商品券が届いた。とくに覚えていたが、店頭で応募した賞券がたまに当たったようだ。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

狙っていたシロギスはなぜか釣れなかったが、釣果はあります。けれども夕方、ボートを撤収する際、ゴミを拾おうとしてかんだら携帯電話がポケットから転がり落ちて、海の中に落ちてくれたお礼をしているように見えた。私はその時、「このメジナは礼儀正しい奴だ」と思った。

それから一カ月ぐらいたった後、今度は別のデパートから5千円の商品券が届いた。とくに覚えていたが、店頭で応募した賞券がたまに当たったようだ。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

狙っていたシロギスはなぜか釣れなかったが、釣果はあります。けれども夕方、ボートを撤収する際、ゴミを拾おうとしてかんだら携帯電話がポケットから転がり落ちて、海の中に落ちてくれたお礼をしているように見えた。私はその時、「このメジナは礼儀正しい奴だ」と思った。

それから一カ月ぐらいたった後、今度は別のデパートから5千円の商品券が届いた。とくに覚えていたが、店頭で応募した賞券がたまに当たったようだ。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

狙っていたシロギスはなぜか釣れなかったが、釣果はあります。けれども夕方、ボートを撤収する際、ゴミを拾おうとしてかんだら携帯電話がポケットから転がり落ちて、海の中に落ちてくれたお礼をしているように見えた。私はその時、「このメジナは礼儀正しい奴だ」と思った。

それから一カ月ぐらいたった後、今度は別のデパートから5千円の商品券が届いた。とくに覚えていたが、店頭で応募した賞券がたまに当たったようだ。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

狙っていたシロギスはなぜか釣れなかったが、釣果はあります。けれども夕方、ボートを撤収する際、ゴミを拾おうとしてかんだら携帯電話がポケットから転がり落ちて、海の中に落ちてくれたお礼をしているように見えた。私はその時、「このメジナは礼儀正しい奴だ」と思った。

それから一カ月ぐらいたった後、今度は別のデパートから5千円の商品券が届いた。とくに覚えていたが、店頭で応募した賞券がたまに当たったようだ。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

狙っていたシロギスはなぜか釣れなかったが、釣果はあります。けれども夕方、ボートを撤収する際、ゴミを拾おうとしてかんだら携帯電話がポケットから転がり落ちて、海の中に落ちてくれたお礼をしているように見えた。私はその時、「このメジナは礼儀正しい奴だ」と思った。

それから一カ月ぐらいたった後、今度は別のデパートから5千円の商品券が届いた。とくに覚えていたが、店頭で応募した賞券がたまに当たったようだ。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

狙っていたシロギスはなぜか釣れなかったが、釣果はあります。けれども夕方、ボートを撤収する際、ゴミを拾おうとしてかんだら携帯電話がポケットから転がり落ちて、海の中に落ちてくれたお礼をしているように見えた。私はその時、「このメジナは礼儀正しい奴だ」と思った。

それから一カ月ぐらいたった後、今度は別のデパートから5千円の商品券が届いた。とくに覚えていたが、店頭で応募した賞券がたまに当たったようだ。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

狙っていたシロギスはなぜか釣れなかったが、釣果はあります。けれども夕方、ボートを撤収する際、ゴミを拾おうとしてかんだら携帯電話がポケットから転がり落ちて、海の中に落ちてくれたお礼をしているように見えた。私はその時、「このメジナは礼儀正しい奴だ」と思った。

それから一カ月ぐらいたった後、今度は別のデパートから5千円の商品券が届いた。とくに覚えていたが、店頭で応募した賞券がたまに当たったようだ。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

狙っていたシロギスはなぜか釣れなかったが、釣果はあります。けれども夕方、ボートを撤収する際、ゴミを拾おうとしてかんだら携帯電話がポケットから転がり落ちて、海の中に落ちてくれたお礼をしているように見えた。私はその時、「このメジナは礼儀正しい奴だ」と思った。

それから一カ月ぐらいたった後、今度は別のデパートから5千円の商品券が届いた。とくに覚えていたが、店頭で応募した賞券がたまに当たったようだ。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

狙っていたシロギスはなぜか釣れなかったが、釣果はあります。けれども夕方、ボートを撤収する際、ゴミを拾おうとしてかんだら携帯電話がポケットから転がり落ちて、海の中に落ちてくれたお礼をしているように見えた。私はその時、「このメジナは礼儀正しい奴だ」と思った。

それから一カ月ぐらいたった後、今度は別のデパートから5千円の商品券が届いた。とくに覚えていたが、店頭で応募した賞券がたまに当たったようだ。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

狙っていたシロギスはなぜか釣れなかったが、釣果はあります。けれども夕方、ボートを撤収する際、ゴミを拾おうとしてかんだら携帯電話がポケットから転がり落ちて、海の中に落ちてくれたお礼をしているように見えた。私はその時、「このメジナは礼儀正しい奴だ」と思った。

それから一カ月ぐらいたった後、今度は別のデパートから5千円の商品券が届いた。とくに覚えていたが、店頭で応募した賞券がたまに当たったようだ。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

狙っていたシロギスはなぜか釣れなかったが、釣果はあります。けれども夕方、ボートを撤収する際、ゴミを拾おうとしてかんだら携帯電話がポケットから転がり落ちて、海の中に落ちてくれたお礼をしているように見えた。私はその時、「このメジナは礼儀正しい奴だ」と思った。

それから一カ月ぐらいたった後、今度は別のデパートから5千円の商品券が届いた。とくに覚えていたが、店頭で応募した賞券がたまに当たったようだ。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

狙っていたシロギスはなぜか釣れなかったが、釣果はあります。けれども夕方、ボートを撤収する際、ゴミを拾おうとしてかんだら携帯電話がポケットから転がり落ちて、海の中に落ちてくれたお礼をしているように見えた。私はその時、「このメジナは礼儀正しい奴だ」と思った。

それから一カ月ぐらいたった後、今度は別のデパートから5千円の商品券が届いた。とくに覚えていたが、店頭で応募した賞券がたまに当たったようだ。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

狙っていたシロギスはなぜか釣れなかったが、釣果はあります。けれども夕方、ボートを撤収する際、ゴミを拾おうとしてかんだら携帯電話がポケットから転がり落ちて、海の中に落ちてくれたお礼をしているように見えた。私はその時、「このメジナは礼儀正しい奴だ」と思った。

それから一カ月ぐらいたった後、今度は別のデパートから5千円の商品券が届いた。とくに覚えていたが、店頭で応募した賞券がたまに当たったようだ。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

狙っていたシロギスはなぜか釣れなかったが、釣果はあります。けれども夕方、ボートを撤収する際、ゴミを拾おうとしてかんだら携帯電話がポケットから転がり落ちて、海の中に落ちてくれたお礼をしているように見えた。私はその時、「このメジナは礼儀正しい奴だ」と思った。

それから一カ月ぐらいたった後、今度は別のデパートから5千円の商品券が届いた。とくに覚えていたが、店頭で応募した賞券がたまに当たったようだ。

「捕獲収容所」のバケツからハイジャンプで「大脱走」に成功した。私は仕掛けをサバ(小刻みに引張りながらリールを巻くこと)途中だったので、バケツに戻るのが面倒くさく、しばらく放ったらかしにした。数分後、炎天下のボートの船板の上を見とると、サバは懸命の脱出行動も虚しく、すでに死んでいた。

「講義雑感」

岡崎 慎吾

(80年度生)

最近、本務とは別に週に一度、国のある研修機関で法学概論と憲法の講義を担当している。講義を受ける学生は年齢的には若く、大学と同等。十年一昔と言ったが、大学で藤馬憲法を学んだのはもう「二昔前」になる。その私が何の縁あってか、学生に法学と憲法を教える機会を得ている。

講義は討議形式で行うことも多いが、その中で「二昔前」に生まれた彼らの考え方に大いに驚き、また考えさせられる場面も少なくない。

先般「法と道徳」をテーマに講義を行った際、藤馬子「自分の寄稿文を見てその喜びに浸って頂きたい」と思っています。

編集後記

亀井 徹 (79年度生)

去年も書いていたと思いますが、来年こそは、十分なゆとりを持って取り掛かりたいと思いますので、どうか、原稿依頼のメールが届きましたら、果敢にアタックして頂き「龍のおとし子」の自分の寄稿文を見てその喜びに浸って頂きたいと思っています。

去年も書いていたと思いますが、来年こそは、十分なゆとりを持って取り掛かりたいと思いますので、どうか、原稿依頼のメールが届きましたら、果敢にアタックして頂き「龍のおとし子」の自分の寄稿文を見てその喜びに浸って頂きたいと思っています。